

講義名	論文作成方法論研究				授業形態	
担当教員	小笠原 宏	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
社会科学の学術論文と研究手法の基本的作法、一般的作法を身につけて実践できるようにする。当面の学位論文作成の準備を進める。社会科学分野とくに経営経済分野のが学術研究論文の執筆及び作成に関する基本的な手法と技術を身につける。						
到達目標						
受講生自身の問題意識を明確にしながら、研究論文執筆にいたる具体的なロードマップ及び研究計画書の構築及び策定が行える。方向性などが決まれば、早々に論文作成準備作業に入れる。						
提出課題						
各自の研究テーマ、問題意識にそった、基礎的リサーチを行って、途中成果報告と見通しを輪番でプレゼンしてもらう。そのための資料作成をしてもらい、皆で議論する。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
クラス討議での講評及び相互質疑を行う。						
評価の基準						
輪番で行うプレゼン及び資料の完成度において評価。討議授業での参加度などを基に評価する。受講者には平等に発表及びクラス討議の機会を与えたとともに、それに応じたレジメ他準備報告の作成、提出を求める。受講者には1～2回の発表討議機会を設ける予定。（授業開始後、スケジュール、順番ほかを合議して決定する）全回出席、自身の論文に関する発表が必須条件。受講生相互の評価も参考に取り入れる予定。各プレゼンの内容及びできによって加点する。						
履修にあたっての注意・助言他						
研究者としてのマナーと具体的な作法を身につけるようにして下さい。 自分の研究手法や思考法の具体的な確立につながるような努力して下さい。						
教科書						
参考図書						

その他			
各自の作成するプレゼン資料及び、適宜必要な資料、テキスト類を配付する予定。 動画その他、多様な資料、材料も必要に応じて投入する。			
授業計画			
1.～5 基本的な作法、考え方を指導し、議論する。自ら実践できる形にどうすればいいのかという問題意識を忘れないようにする。質疑応答。 6～15 各自の、研究テーマ（修論予定テーマ）に関する、文献研究などを含めた研究計画書の策定と実践。その経過及び成果を輪番で発表する。その資料を基に全員で議論、意見交換。			
授業形態（アクティブ・ラーニング）			
○	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A～I型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連			
修士論文の作成準備開始とロードマップの具体化を行う。			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
個別の研究課題を相互全体で討議。オンライン実施の場合は、ズームなどを活用する。学会発表などを想定した場合、オンラインでの発表、質疑などが現実に行われているのでそれらに対する準備練習機会ともしたい。			
実務経験の有無及び活用			
外銀勤務、シンクタンク勤務経験あり。他大学への出講経験あり。留学経験（ファカルティレベル、アメリカ）あり。			
備考			